

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島東高等学校 全日制・定時制  
学校番号 ( 40 )

評価実施日		令和6年2月15日(木)	
委員	氏名	所属等	備考
	渡部 慎二	学校評議員、伊予銀行 宇和島支店長	
	一色 敏徳	学校評議員、愛媛新聞社 南予支社長	
	高田 哲也	株式会社 高田商店 代表取締役	
	田上 和昭	元県立高校 校長	
	田中 繁幸	ジブラルタ生命保険株式会社 営業次長	
	今井 純	宇和島市立城南中学校長	
	中川 秀樹	P T A会長	
	芳谷 圭一	教育振興会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 心身健康で豊かな心</p> <p>ア 生徒と先生の信頼関係のもとに校則の見直しが行われていることを前向きに捉えたい。昨年、県内でも高校生が被害者となる痛ましい事故が発生しており、自転車の交通事故防止を含め、外部講師を招くなど、交通安全教育の更なる充実をお願いしたい。</p> <p>イ 南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率は80%といわれている。巨大地震への備えとして防災教育を今後も充実させ、生徒の防災意識の向上に役立ててほしい。 また、災害時に備え、学校に防災倉庫の設置等も検討してはどうか。</p> <p>ウ 基本的な生活習慣の定着や人権意識の育成、ボランティア活動や部活動、特別活動での指導等、様々な教育機会を通して健やかな体、感謝する心や他を思いやる心、自他を尊重する心等を養う活動が適切に行われていると感じる。心身健康で豊かな心は、自己実現の基礎をなすものであるため、今後も「質の高い文武両道」を通して生徒の人間性を高める取組を続けてほしい。</p>	<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 心身健康で豊かな心</p> <p>ア 今後も生徒会と連携して、生徒たちが主体的に校則について考えていける雰囲気を作りたい。交通安全については、これまで以上に交通安全指導や街頭指導、交通安全委員会からの呼びかけ等を充実させることで交通安全意識の向上を図り、交通事故0を目指したい。</p> <p>イ 本校では防災委員会を設置しており、校内避難訓練や市内6校合同避難訓練の際の企画・運営を行っている。また、文化祭での展示等で生徒への啓発活動にも取り組んでいる。さらに、福島県や愛知県、兵庫県、岡山県等の高校生と合同学習会を定期的に開催し、学びを拡充させている。市内あるいは県内で開催される防災イベントや発表会にも積極的に参加しており、今後も継続して取り組み、防災教育を推進していきたい。 防災倉庫については、宇和島市より津波避難施設の指定を受けている関係で校内に設置している。備蓄資材は、発電機・投光器・毛布・簡易トイレ等を備えている。また、災害時備蓄物資として食料990食・水3,000本(490ml)も宇和島市より依頼を受け保管している。</p> <p>ウ 今後も担任、各課、関係機関と情報を共有し連携しながら様々な教育活動に取り組み、生徒の人間性を高めていきたい。 人権意識の育成に関しては、毎月22日を人権の日とし、人権だより「Hidamari」を発行して、SHR時には人権委員長からの校内一斉放送や人権・同和教育ホームルーム活動、人権・同和教育講演会、人権集会を行い、人権について考える時間や設けている。それらの教育活動を通してさらに人権尊重の精神、より良い生き方の追求を行っていききたい。</p>

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>(2) 探究心・実践力の育成</p> <p>ア アンケート集計結果での生徒、保護者の学校や教員に対する評価は高く、刊行物での生徒記述、進路状況等の資料、ホームページ等による情報提供が丁寧に行われている様子がうかがえる。 学校への信頼関係が構築されており、教職員が熱意をもって生徒の自己実現に向けて組織的かつ計画的に教育活動に取り組んでおり、その成果も現れている。</p> <p>イ 大学等の進学状況をみても、昨年度に並ぶ成果が上がっている。部活動においても成果が現れており、文武両道を目指しながら頑張る姿勢は大変素晴らしい。 今後も学力向上への取組やキャリア教育の充実を含め、地域や社会における体験活動等も取り入れながら教員の適切な指導と導きによって生徒の自己実現力を育成していただきたい。</p>	<p>(2) 探究心・実践力の育成</p> <p>ア 今後も「教科等横断型授業」、「ICEモデルを基軸とした新たな学び」の研究・実践を通して、生徒の学びの多様性を保障し、教科を超えて授業改善について取り組む風土を大切に、教育の質の向上に努めたい。さらに、「自己調整学習」の研究により、生徒の「自ら学ぼうとする姿勢」を育てていきたい。 また、ICE機器をより効果的に活用し、生徒の意欲、教職員のやりがい・ウェルビーイングを高めたい。</p> <p>イ 土曜補習の廃止、課題の精選、ICT端末の利用、部活動の休日の設定等が軌道に乗り、生徒が主体的に学ぶ時間や振り返りをする時間を確保できたことで、文武ともによい成果が現れていると感じている。また、今後もボランティア活動をはじめ、地域に貢献する活動を積極的に取り入れ、生徒が将来への目的を見つけ、主体的、協働的に学ぶ姿勢を養っていきたい。同時に、我々教職員もより一層ワークライフバランスの充実を図り、温かい学校づくりを目指したい。</p>
<p>(3) 魅力ある学校</p> <p>ア 学校参観の際にも生徒は明るく授業や学校行事に参加できていると感じた。教職員の熱意とやる気は、生徒たちが自分らしい生き方の実現に向けて、主体的に学校生活を送ろうとする意欲につながっていると思われる。 コロナ禍では難しかった全校生徒による校歌や応援歌の斉唱などを今後は各種行事でも復活させ、愛校心を育む一助としてほしい。</p> <p>イ 様々な制約や教職員の適切な業務分担にも配慮する必要があるため、生徒会や保護者、教職員の声にも耳を傾けながら、現在行っている学校行事等のブラッシュアップを行いながら生徒主体の魅力や達成感が得られるものにしていくことを検討する必要もあるのではないかと考える。</p> <p>2 定時制について</p> <p>生徒の社会的自立や希望進路の実現に様々な取組がなされている。成果が十分にでないものも見られるが、生徒の気持ちや将来の希望、家庭事情を汲み取り、根気強く指導、支援されていることがうかがえる。 困難なことも多々あると思うが、実社会に出て大きく成長する生徒もいるので、今後も温かい心で接し、継続した教育をお願いしたい。 全日制は読書の習慣を身に付ける「朝の読書」を実施している。読書には豊かな心を育み、物事を深く考える姿勢を養う効果も期待できるのではないかと考える。図書館の積極的な利用を促すとともにSHRの時間を利用して読書の時間を設定してはどうだろうか。</p> <p>3 学校運営について</p> <p>学校参観や自己評価表、アンケート集計結果等からも学校運営が適切に行われていることがうかがえる。一方、教職員は教科や校務分掌、部活動指導等の仕事も多種多様で勤務時間の適正化と休暇の取得など、ワークライフバランスがとりにくい面もあり、教職員の労務負荷が気になる。管理職には自身の勤務管理はもちろん、職員全体の勤務管理に一層の目配りをお願いしたい。</p>	<p>(3) 魅力ある学校</p> <p>ア 4年ぶりに在校生と共に卒業式が実施された。式では「校歌」や唱歌「仰げば尊し」の歌声が体育館にこだました。また、部活動の全国選抜大会出場の壮行会では「応援歌」も歌われた。次年度は、様々な特別活動の場面でも取り入れ生徒や教職員、保護者にとって愛校心の醸成につながる取組にしていきたい。</p> <p>イ 学校再編整備計画や働き方改革が進展し、教育現場が大きく様変わりする時こそ学校の魅力化がこれまで以上に求められると考える。地域との連携を深めつつ、部活動や学校行事は、今後どうあるべきか検討しなければならない。地域貢献活動への取組充実もその一例であり、次年度はさらに改善し、実施していきたい。</p> <p>2 定時制について</p> <p>成果が十分ではなかったボランティアや生徒生活体験発表大会に関しては、その意義について十分に説明するほか、生徒に全国大会の発表を視聴させるなど意欲の向上に努めていきたい。また、学校行事等、評価の高かった項目に関しても、生徒が主体的に準備や運営ができるよう改善していきたい。 家庭の環境や経済状況が厳しい生徒が多いことを踏まえ、進路指導のみならず、社会人として必要なスキルを身に付ける講習会等にも積極的に取り組んでいきたい。また、地域の担い手となる人材の育成にも取り組んでいきたい。 読書の啓発に関しては、来年度、総合的な探究の時間のテーマ学習に「読書に親しもう」という講座を設ける予定である。また、全校集会において、教頭や国語科教員からの読書についての講話を計画している。</p> <p>3 学校運営について</p> <p>教材研究や生徒の進路研究など、教職員の業務には「ここまで」という限度を設定しにくいものがある。業務を「何時までに終わらせる」という設定も困難な点がある。管理職が、教職員各自が記録する「出勤状況記録表」等を確認し、勤務時間外在校時間が月80時間を超える教職員には面談を行い、業務内容を確認し、精選できるものは精選していただき、ワークライフバランスがとれるような勤務にできるよう指導していきたい。</p>